



黒島魂

～しまごころ～

「みがきあい(キラキラ)」

「ささえあい(ニコニコ)」

「わかりあい(ワクワク)」

県民祈りの日

今日8月9日は、県民祈りの日です。

あの戦争から、77年になりますが、世界に目を向けると、ロシアのウクライナ侵攻等、様々な国や地域で、戦争や紛争が起きています。そして、日本の近隣でも、緊張状態にある国は存在しており、手放しに平和といえる状況にないという現実があります。



私は、常々長崎県の子供たちは、将来世界平和の推進役を担ってほしいと思っています。その願いを込めて、平和集会で講話を行いましたので、紹介します。

おはようございます。

今、日本から遠く離れたウクライナという国で、そのウクライナとロシアという国が戦争をしているのを知っていますか？その戦争でウクライナ、そしてロシア両国の人がたくさん亡くなっています。

なぜ、そんな戦争が起こってしまったのでしょうか。これを説明するには、ウクライナとロシアがどのような歴史をたどってきたのかから説明する必要がある、とても難しい話になってしまいます。ただ、一つ言えることは、それぞれの国が、自分の国だけでなく相手の国のことを理解し、考えることができれば、戦争を防ぐことができたのではないかと思います。

さて、皆さんは、今から77年前まで、この日本も、世界の国を相手に戦争をしていたことは知っていますか？残念ながら、その戦争で、日本人も戦争をした相手の国の人も、戦場になったアジア等の国の人たちも、多くの方が亡くなりました。

校長先生のおじさん(お父さんのお兄さん)にあたる人は、お医者さんになるための大学に通っているときに、軍医として戦争に駆り出され、硫黄島の戦いで亡くなったそうです。

77年前の8月9日11時2分、長崎市の上空で原子力爆弾が爆発し、多くの尊い命が失われました。その凄惨な状況は、5年生以上の皆さんは分かりますよね。

あの戦争で失われた命は、戦争さえなければ、失われることはなかった命です。

なぜ、日本は戦争をしてしまったのでしょうか。これもまた、歴史の話からする必要があるので、とても説明が難しくなります。しかし少なくとも、多くの日本人は「すべては日本の国のため」と信じ、戦争を止めることができなかったのです。

いったい何が足りなかったのでしょうか。

校長先生は、昨年のこの平和集会で「戦争は国と国の喧嘩」と言いました。覚えていますか？

喧嘩をしないために必要なことは何でしょうか。

それは「相手の気持ちを考えること」です。喧嘩になるときって、自分のことしか考えていませんよね。相手の立場や気持ちを、少しでも考えることができれば、喧嘩は防ぐことができます。

戦争もこれと同じだと思います。自分の国以外の国の人々のことを理解しようとするれば、戦争は決して起こることはないと思います。

今日は、8月9日「県民祈りの日」です。これから先の未来に、世界中のどこにおいても戦争を起こさないために、自分ができることは何かを、一人一人考える日です。

そんな日に、校長先生から一つお願いがあります。「戦争は国と国との喧嘩」と言いましたが、逆に言えば、「喧嘩は小さな戦争」です。この「小さな戦争」を絶対に起こさないこと、これが、校長先生からのお願いです。

そのために必要なことは何でしょうか。ヒントは、今日の、校長先生のお話の中にあると思います。あとでじっくりと考えてみてください。

以上で、お話を終わります。